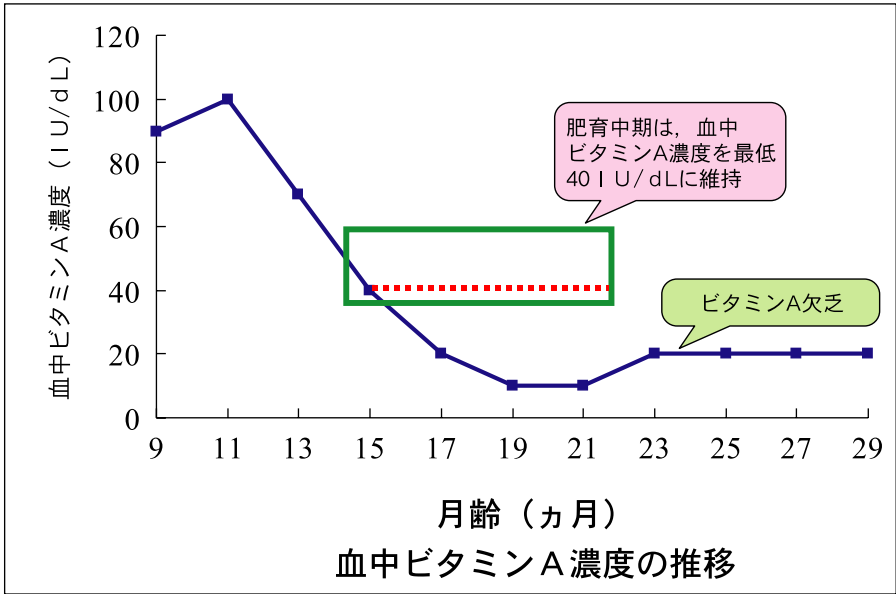


# 肥育中期における血中ビタミンA濃度コントロール手法



- (1) 黒毛和種では、肥育中期におけるビタミンAの給与を制限し、血中のビタミンA濃度を低い水準にコントロールすることで脂肪交雑を向上させる肥育技術が普及しています。
- (2) しかし、ビタミンAの制限が厳しすぎると夜盲症、発育不良、筋肉水腫（ズル）が発生することが報告されています。
- (3) 特に、飼料摂取量の低下が問題となっています。



肥育中期は脂肪交雑を向上させるため  
血中ビタミンA濃度を40~60 IU/dL程度に制限する必要がある

飼料摂取量が減少（血中ビタミンA濃度が30IU/dL以下に低下）した場合

体重1 kg当たり 10.6 IU/日のビタミンAを7日間、経口投与することで血中ビタミンA濃度を40~60 IU/dLに上昇させ、飼料摂取量を回復させることができる。

ビタミンA添加終了後14日目の血中濃度は、添加前の値まで低下し、同時に飼料摂取量も減少するため

14日目以降にビタミンAを再給与することで、血中濃度をコントロールしながら飼料摂取量を維持することが必要。

